

随 想

日本に来て思ったこと

張 文萍

昨年の6月、私は昔からの夢を実現するために日本へ勉強に来ました。日本に来る前に、中国と違うことを聞きました。でも、日本にきて、ほとんど毎日意外な発見をします。

中国にいたときに、日本人の強い環境保全意識を聞きましたが、初めて日本の空を見たとき驚きました。日本の空気はとてもきれいです。森林の空気のように澄んでいます。都市でも、田舎でも、どこでもきれいな空気を呼吸できます。来たときに住んでいたところは、北陸大学の松雲会館です。毎朝、起きるとき、窓外の鳥の声が聞こえます。窓を開いて、翠緑の山やきれいな溪流がみえます。ああ、緑の丘、緑の草、まわりが映った水面の緑一色でした。そのとき、景色をみるというより、わたしはもう自然に溶け込んでいたといってもいいでしょう。その素晴らしい景色を見て、確かに日本人に対して羨ましいという思いが湧いてきました。留学生活している私としては、生きた日本語にふれ、美しく機能的、文化的な生活を味わって満足しています。しかし、それ以上に日本の緑に感動しました。そのことからもういっそう故郷のことが思われてなりません。

古都の西安は、昔は「八水長安を巡る」と言われた緑いっぱいの大都市でした。でも、十数年前からの経済成長とともに、気付かないうちにあちこちで、数多くの煙突が出てきました。そして、一本一本からもくもくと黄色い煙や黒い煙を出していました。エネルギーの大量消費で、経済は驚くほどのスピードで発展してきました。しかし、ここ数年西安の市民たちは、青空をみるチャンスがどんどん減ってきて、空はいつもねずみ色の蓋のように上空にかぶさっています。

たしかに、高度に発達した科学技術と経済が人間に様々な恩恵をもたらしています。科学者たちが発見した知識は、便利な生活をもたらしています。発明した電灯から、人間は光明を受けています。蒸気機関が発明されたあとで、産業

革命がはじまりました。近代、原子力の発見が人間に巨大なエネルギー源をもたらしています。パソコンの発明が人間に通信情報時代の幕を開け、高度に発達した科学技術が人間に巨大な富をもたらしています。しかし、科学の発達、経済の発展が人間に不幸をもたらす恐れがあります。ある動物と植物の種が減びたということは著しい例です。その原因は環境が変化したためです。大気汚染や土壌汚染や海洋汚染などという公害が環境を破壊するのです。今、全世界をみれば、我々が守っている緑は、想像もできないスピードで減少しています。地球上に生きている全てのものは、緑のおかげで生きてきたのです。人類はいろいろな目的を持ちながら、我々をずっと昔から守ってくれた緑を破壊しています。このままいくと、人間は地球で生きることができなくなる恐れがあるといっても言い過ぎではないでしょう。でも、いかなる力も経済の発展を阻めません。それで、科学技術を利用して、環境を保護しなければならないと思います。クローン技術の発明が絶滅寸前に瀕している種を救うかもしれません。太陽エネルギーの利用などが環境の破壊を減らし、リサイクルできる資源の回収が資源を節約します。日本は環境を保護しながら、経済を高度に発展させています。例えば、我が国が日本のようなごみ分類の方法をよく勉強するべきだと思っています。燃えるごみ、燃えないごみや資源ごみなどがはじめはわかりにくかったですが、だんだん覚えてきました。でも、毎日ごみ分類のルールを守ることはやさしくないと思います。日本人はみんなができます。ほんとにまじめな民族です。

日本に来て思った事はいつ我が国の空気がきれいになるかという事です。いつ青々と茂っている緑が目いっぱい現れるのでしょうか。ですから、できるだけ早く日本の緑を故郷の人々に紹介しようと思っています。それに、大人と子供の心の中に「いっぱい緑が茂る」ことも楽しみにしています。

(名古屋大学大学院医学研究科博士課程)